

写

受理番号	陳情第4号
受理年月日	令和8年5月18日

陳 情 書

排泄に課題を抱える障害者の日常生活用具へ  
排泄予測支援機器の追加認定についての陳情

1 陳情の要旨

二宮町において、排泄に悩みを抱える障害者が負担少なく購入できるよう、排泄予測支援機器「DFree」を日常生活用具として追加認定いただきたい。

\*「DFree」は令和4年4月に特定福祉用具認定され、介護保険適用である

2 陳情の理由

1 令和6年3月の障害者保健福祉関係主管課長会議資料「日常生活用具給付等事業の適正な実施について」には、「日常生活用具給付等事業については、その事業費が年々増加傾向にあり、今後も安定した事業運営を行うためには各市町村において効果的・効率的な事業実施が図られる必要がある。また、当該団体者等からは、一部の市町村においては、長期間にわたり種目や基準額等の見直しが行われていない状況にあるとの声も寄せられているところである。このため、各市町村においては定期的に当事者の意見を聴取によるニーズ把握や実勢価格の調査等、地域の実情に即した適切な種目や基準額となるよう定期的な見直しに努められたい」と記載がある

2 小規模自治体においては、福祉サービスの選択肢が都市部と比較して限定的になりがちであり、町民の日常生活上の選択肢を広げることは自治体施策における重要な課題である。日常生活用具給付事業は対象品目を限定的に運用しているケースが多いが、「DFree」のように高い効果が見込まれる機器を一つ追加することで、町民の生活の質向上と家族介護の継続性確保に直接的に貢献する。限られた財源を真に必要な支援に重点配分するという観点からも、二宮町における本機器の追加認定の意義は大きい。

3 排泄予測支援機器「DFree」は超音波センサーにより膀胱を経時的にモニタリングし、膀胱内の尿の溜まり具合を0~10で数値化が行われる。その数値は専用タブレットやスマートフォンで確認でき、排尿のタイミングを予測し排尿機会を本人または介助者に通知することが可能。「DFree」を装着し、通知のタイミングで声かけを行うことで、感覚や時間でトイレ誘導をするのではなく、膀胱に尿が溜まったタイミングで声かけを行える。完全にトイレで排泄できる段階までは成功していないが、中長期的に活用することで、本人が通知を元に（尿意を感じて）トイレへの訴えができるようになるのではと期待をしている。このように「DFree」は適切なタイミングで尿意を感じることができない障害者にとって非常に有用である。排泄に悩みを抱える障害者が負担少なく購入できるよう、排泄予測支援機器「DFree」を日常生活用具として追加認定いただきたい。

二宮町議会議長 前田 憲一郎 さま

令和 8 年 5 月 18 日 [Redacted]  
住 所 [Redacted]  
氏 名 江村 絵美 [Redacted] (印)  
電話番号 [Redacted]